

「君が代」で起立しない とクビ!?

東京の学校では卒業式・入学式で「君が代」斉唱時に起立をしないと、教員が処分を受けることをご存じでしょうか? 2004年の春から始まっています。

教員たちのほとんどが「君が代」の強制に反対ですが、処分とそれによる不利益を恐れ、意に反して起立をしています。しかし、中には起立を拒否する教員たちがいて、この5年間に延べ410名の教員が処分を受けています。

これまで一貫して起立を拒否している根津公子さんは、昨春停職6ヶ月で今春には懲戒免職(クビ)が予想されていましたが、大勢の方が都教委に対し声をあげたことによりクビは免れ、停職6ヶ月に、同じく起立を拒否してきた河原井純子さんは、今春停職6ヶ月の処分を受け、二人とも、来春の卒業式ではクビにされる恐れがあります。二人とも、それでも起立はしないと決意しています。



河原井さん根津さんらの「君が代」解雇をさせない会

連絡先:多摩教組 (042-571-2921)

東京都教育委員会の暴力を看過したら、

子どもたちの未来はない！！

■不起立は「従順な子どもをつくらない」ため

学校は子どもたちに、「日の丸・君が代」の歴史や意味は教えずに、考える機会を与えないままに起立・斉唱を求めます。そして、それを徹底させるために都教委は校長に、教員が起立することを求める職務命令を出させています。その職務命令に違反すれば（起立しなければ）、処分を受けることになるのです。

河原井さん・根津さんは、クビを覚悟してまで起立を拒否する理由を次のように言います。

「自分の頭で考え判断することを教えるのが学校。考えずに指示命令に従う子どもをつくることはできない」「『イエス・ノーを言っていないんだよ』と言ってきたのに、自身が、間違っただと考える命令に従ってしまったら、子どもたちに嘘をつくことになる」と。

■「従順な国民」を求める国家

国家＝政界・財界が「従順な子ども」の先に求めるのは、「従順な国民」「従順な労働力」です。99%の「非才・無才」には「実直な精神」、すなわち、どんなに低賃金・無権利労働でもそれは自己責任と受け止める労働者であることを求めています。そして、極貧の生活に耐える精神力を「愛国心」で充填しようという魂胆です。また、イラクへの自衛隊派兵の拡大などを進めるために必要な「従順さ」と「愛国心」をも、教育に求めています。田母上元航空幕僚長は批判を受けましたが、それと変わらぬ思想がそこには流れています。それを示す政界・財界の発言を示しましょう。

「平均学力が下がらないようでは、これからの日本はどうにもならないということです。つまり、できん者はできんままで結構。戦後50年の落ちこぼれの底辺を上げることばかりに注いできた労力を、できるものを限りなく伸ばすことに振り向ける。百人に一人でいい、・・・限りなくできない非才、無才には、せめて**実直な精神**を養ってもらえばいい」（三浦朱門 文部科学省・教育課程審議会前会長）

「経済的な**格差**・・・は、経済活力の源であり」「経済改革は**愛国心**とセットになって初めて成功する」（御手洗富士夫 キヤノン会長 日本経団連会長）

「国のために命を投げ出しても構わない日本人を生み出す」（西村眞吾 教育基本法改正促進議員連盟）

◇◇◇ ◇◇◇ ◇◇◇ ◇◇◇

指示命令が幅を利かす組織・集団は、私たち一般の人にとって生き辛いものです。「君が代」の起立を拒否する教員たちは、子どもたちが指示命令で動かされるのではなく、民主主義と人権感覚を身につけた育ちをしてほしいと考えています。

皆さま、「君が代」処分をやめるよう、河原井さん根津さんをクビにしないよう、都教委にあなたの声を届けてください。

河原井さん根津さんらの「君が代」解雇をさせない会

連絡先:多摩教組（042-571-2921）